

令和元年9月3日現在

機関番号：25201

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2018

課題番号：26300011

研究課題名(和文)中国格差社会における「つながり」の生成 基層社会の弱者に対する支援を手掛かりに

研究課題名(英文) A Study on How to Create Social Ties in Chinese Gap-Widening Society: from a Perspective of Supporting Disadvantaged

研究代表者

李 曉東 (LI, XIAODONG)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：10405475

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,600,000円

研究成果の概要(和文)：現在の中国では、格差の拡大により社会が分断されている。社会の活力を取り戻すために、人々の中の「つながり」を再建しなければならない。本研究は、中国都市部のコミュニティに対する実地調査を重ね、コミュニティにおける人々の多様な取り組みの現状を明らかにしたとともに、コミュニティの中における諸アクター間の関係について考察した。さらに、伝統中国の「自治」との比較を通して、中国社会の自治は、「国家」と「社会」との協働が不可欠であることを明らかにし、その可能性について展望した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの中国社会に関する研究は、「上」からの「管理」、ガバナンスや、「下」からの「市民社会」論というアプローチが多い中で、本研究は基層社会における人々の「つながり」の形成をキーワードに、コミュニティにおける行政、住民、そして、両者の間にある「居民委員会」の三者の協力と緊張関係に焦点を置いて考察したところに特徴があった。そして、現在中国の基層社会の「社区建設」をより構造的、内発的に捉えるために、伝統中国社会における「自治」との比較を行ったのは、本研究のもう一つの特徴である。本研究を通して、現在中国社会に対する理解を深めることができ、また、日本における社会的紐帯の形成という課題の参考にもなる。

研究成果の概要(英文)：Chinese society is now divided by growing disparity. In order to regain the vitality of society, it is essential to reconstruct 'connection' among people. Based on fieldworks of urban communities in China, this research clarified the present situation of these communities where various efforts are made by people. The research also looked at the relationships between different actors within these communities. Furthermore, through a comparative study with the 'self-government' of traditional China, it showed that the self-government in Chinese society requires the cooperation between the 'state' and 'society', and considered its possibility.

研究分野：政治学、政治社会学

キーワード：自治 社区 つながり ガバナンス

1. 研究開始当初の背景

(1) 格差社会における都市部の「弱勢群体」の大量出現である。現在の中国は、「不平等国家」(園田茂人)や、「断裂社会」(孫立平)と表現されているように、市場経済の深化に伴う格差問題の深刻化と、それによってもたらした社会の階層化(李培林等『中国社会分層』)や「社会衝突」とが、平等社会を理想としてきた中国の社会的断裂を先鋭的に表している。その中で、とくに都市部の貧困層や、流動人口、高齢者など社会的に弱い立場にある「弱勢群体」が深刻な社会問題になった。社会保障制度が完備されていない現状のなかで、厳しい立場に置かれている「弱勢群体」が社会不安の要因の一つになっている。

(2) 「単位社会」の機能不全と「社区」の未熟である。80年代末までの中国はずっと「単位社会」だった。人々の勤め先である「単位」は生産単位としての生産機能だけでなく、住宅から、医療、福祉まで人々の生活を保障する生活機能と、国家統治の下請けとしての統治機能をもっていた。人々の生活はほぼ全面的に「単位」に依存していた。しかし、市場経済化に伴い、「単位」の生活保障機能と統治機能とが企業の発展を大きく阻害する要因になった。そのため、これらの機能を「単位」から剥離する国有企業改革が行われた。その結果として、必然的に全能的だった「単位」の「機能不全」を招き、「単位社会」は行き詰まった。これを受けて、住宅の分譲化や、医療、社会保障改革が行われたと同時に、「単位社会」にとって代わるものとして「社区」の建設が始まった。「社区建設」は中国の社会構造の大変動を意味するものである。新しい生活の場としての「社区」において、人々は社会保障や、福祉の面でもはや「単位」に頼れなくなった一方、まだ建設途上にある「社区」は人々を繋げるコミュニティとしてあまりにも未熟である。このような事態は「弱勢群体」にとってとくに深刻である。社会保障制度が弱者の支えとしてまだ弱く、社区がいまだ未熟ななかで、「単位」の保護を失った「弱勢群体」が孤立無援の存在になりがちだからである。したがって、新たなコミュニティとして建設されている「社区」は、人々の間の紐帯を生み出し、自助・互助を創出することが強く要請されている。

(3) 「大衆社会」現象の顕在化である。「単位」から「社区」への構造転換により、都市部では、従来の「単位」共同体が解体され、分譲住宅からなる社区は基本的にあかの他人の社会である。日本では半世紀前に提起された「大衆社会」問題は現在の中国で問題になったばかりである。したがって、「つながり」を新しい社会構造のなかでどのように形成させるかは喫緊な課題となっている。

2. 研究の目的

(1) 中国社会がいかに社会的弱者(「弱勢群体」)に対する支援を通して、市場経済の深化によって失われた基層社会の人々の中の「つながり」を取り戻すかを考察し、「社区(コミュニティ)建設」の取り組みから自立的な社会の創出の可能性を考える。

(2) コミュニティ=社区の建設による「つながり」の生成と「政治」の役割を検討することである。本共同研究は、思想史と、政治学、社会学を架橋し、「社区」に対する現地調査を通して、中国基層社会の特質を明らかにしようとするものである。研究は内発的要素を重視する立場から中国社会の自立と「自治」のあり方について検討し、中国社会を「内側」から把握する。また、「つながり」の形成に関する研究は、同じ課題を共有する日本にとっても参考になると考える。

3. 研究の方法

(1) 社区における「弱勢群体」をめぐる自助、互助活動がいかに「つながり」を生み出すのか、その実態を明らかにするために、以下の四つの組織や機関を中心に調査を実施した。A. 早朝と夕方の中国都市の街頭でよくみられるダンスや太極拳、体操のサークルは社区を母体としたものが多い。このような社区の住民たちが自分たちの健康維持、余暇を楽しむために創った自発的な組織、B. 独居老人や、身障者などの弱者への支援や、社区の治安、緑化を維持するためのボランティア活動と組織、C. これらの活動をコーディネートする「居民委員会」、D. 社区における各種の活動に対して支援する行政側。社区におけるこれらの組織や機関の活動と相互関係の実態を明らかにして、基層社会における「つながり」に関する取り組みを明らかにして、「つながり」形成の可能性を考察した。

(2) 「社区建設」における「政治」の役割を明らかにする。「社区建設」において、「つながり」の形成と維持には、「政治」の役割は欠かせない。コミュニティにおける弱者への救済や、ばらばらの「個」の主体性の確立の条件を整備するために、「政治」は政策の面から経済的補助まで果たせる役割が多い。本研究は単純な「国家 VS. 社会」という図式で捉えられない中国社会の特質から、「居民委員会」の「半国家・半社会」の性格に注目する。「居民委員会」がその二つの「顔」を使い分けながら、国家と住民との協働を創出する実態を調査して、基層社会における人々の中の「つながり」の形成に「政治」がどのように関与すべきかを考察した。

4. 研究成果

(1) 本研究は、社区における「つながり」の形成と「共同、公共の公」の創出とは、中国の基層社会の活力を引き出すための不可欠の条件だと考えている。その場合、これまでに十分に注目されてこなかった社区居民委員会の存在は重要である。本研究は、「半国家・半社会」の性

格を持つ居民委員会は、「国家・社会」の二元論だけでは捉えられない「第三領域」の存在として位置づけ、社区建設の鍵を握る存在だということを明らかにした。

(2) この「第三領域」という存在は、国家と社会との「曖昧」な関係を表したものであり、このような特質は、実際、伝統中国の「自治」から受け継いだものだと考えられる。本研究は歴史との連続性を重視して、内発的な視点から中国における自治の可能性を考察した。伝統中国において、官・紳・民三者が相互依存しつつ対立していたという明確に「線引き」のできない曖昧な関係に基づいて、地域社会の「自治」を形成していた。「紳」と「居民委員会」とは性格が大きく異なるが、「第三領域」的な存在という点では共通している。

(3) 「半国家・半社会」の存在である居民委員会は基層社会において国家によって左右されながらも、社区における諸アクターの間の結節点として、様々な形で主体性を発揮して、基層社会における公共性の形成に大きな役割を果たしている。本研究はフィールドワークを通じて、社区における「志願者活動」や、党の権威の活用方法、「社区代表会議」、「人大代表連絡站」などの事例もって、居民委員会の活躍ぶりを実証し、その可能性について考察した。

(4) 本研究は国家が持つ抑圧性を認識する一方、中国における社会の自立は「政治」の力が欠かせないと考えている。人々の権利意識の成長により、「国家」はその正当性を維持していくために、自らが十分にカバーできない社会保障・福祉面を「社会」の力を頼りにしなければならない。全能な国家を断念した以上、国家は社会の自立と自治の支援する以外に選択肢はない。社会に対する過剰介入と抑圧は自らの正当性を失わせることになる。

(5) 中国社会で、家が担ってきた社会保障機能の退化に加えて、社会保障・福祉に関する制度や、施設などの整備が追いつかない状況下、基層社会におけるコミュニティ建設が今後、ますます重要な意味を持つようになる。社区における人々のつながりに基づいた互助、共助、諸主体間の共同という意味でのガバナンスの実現は、「国家」にとっても、「社会」にとっても不可欠である。

<引用文献>

李曉東『現代中国の省察 「百姓」社会の視点から』国際書院、2018年。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

李曉東「百姓(バイシン)社会：中国の『市民社会』の語り方」、日中社会学会 2014年度大会、2014年6月。

[図書] (計2件)

李曉東『現代中国の省察 「百姓」社会の視点から』、国際書院、2018年、387頁。

李曉東「百姓(バイシン)社会：中国の『市民社会』の語り方」、宇野重昭・江口伸吾・李

曉東編『中国式発展の独自性と普遍性 「中国模式」の提起をめぐって』、国際書院、2016年3月、131-155頁。

[その他] (計2件)

講演

李曉東「從封建・郡県到国会」、南京大学学衡研究院名家講座、於中国・南京大学学衡研究院、2018年9月7日、発表言語：中国語

李曉東「百姓の中国と『生』の政治」、中国東北師範大学歴史文化学院講演会、於中国・東北師範大学歴史文化学院、2018年5月5日、発表言語：中国語

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：平石耕

ローマ字氏名：HIRAISHI Ko

所属研究機関名：成蹊大学

部局名：法学部

職名：教授

研究者番号：00507105

研究分担者氏名：江口伸吾

ローマ字氏名：EGUCHI Shingo

所属研究機関名：島根県立大学

部局名：総合政策学部

職名：教授

研究者番号：20326408

研究分担者氏名：唐燕霞
ローマ字氏名：TANG Yanxia
所属研究機関名：愛知大学
部局名：現代中国学部
職名：教授
研究者番号：80326404

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：南裕子
ローマ字氏名：MINAMI Yuko
所属研究機関名：一橋大学
部局名：経済学部
職名：教授

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。